

「地域の音楽」教材化の試み

——お囃子づくりを通して——

小長井 博子

An attempt to produce “local music” with college students by composing Ohayashi music

Hiroko KONAGAI

キーワード：地域の音楽

本研究は地元「佐倉の祭礼」をフィールドワークした学生が、そこで出会った「地域の音楽」をもとに自分たちのお囃子づくりを試みるという授業を展開する『「地域の音楽」教材化の試み』である。学生は佐倉の祭り囃子を直接鑑賞したり演奏したりするという体験を通して、興味の希薄であった地域の音楽を身近に感じ、学習意欲が高まる経験や、自分たちのお囃子づくりをすることにより、地域の音楽への親しみが増し、自分たちとの関わりを強く意識するようになるなど、教育現場における地域密着型の教育の重要性を体感することになる。

I はじめに

グローバル化の時代にあり音楽科においては「幅広い音楽観の育成」という理念のもと、いわゆるクラシックと呼ばれるある一時代のヨーロッパを中心とした西洋の音楽に加え、我が国や郷土の伝統音楽や、諸外国の民族音楽、ポピュラー音楽に至るまで、幅広く教材化する努力が積み重ねられてきた。しかし学生たちの音楽的視野や音楽体験には今回私が行った意識調査によっても依然として偏りが

見受けられる。

本研究においては、わが国の音楽に興味を持たせるために、学生の身近にある「地域の音楽」に着目した。地域の音楽を体験し、さらに音楽づくりに発展させることにより、これらの音楽が自分と関わっているがという意識を高めたり、内在していると思われる日本人としての音楽感覚を触発することができたりするであろうと考えたからである。学生が実際に生活しているさまざまな環境に伝承されている地域の音楽を素材にして学校音楽に取り入れていくことは、我が国の音楽文化に愛着をもつという指導のねらいにも直接結びつくものである。また他の民族や地域の音楽も大切にすることのできる心を育てることになり、教職を目指す学生にとって大きな意義を持つものであると考えた。また、地域の音楽の教材化に取り組んでいる大学はあまり多いとは言えない。「何をどんなふうに取り上げれば良いのかわからない」という教える側の声を耳にしたこともある。また千葉県内公立小中学校において和楽器を使用した授業は浸透はしてきたものの、現状では和楽器の保有台数が限られている市町が多いこともあり、

授業公開には努力を要している。そこで、手軽に授業を展開するためにも、身近にどんな音楽文化が存在し、その教育的価値や教材性はどこにあるのかを明らかにし、さらにその効果的な指導法について吟味してみる必要があると考えた。

Ⅱ 目的

地元佐倉の地域の音楽から、特に祭り囃子を取り上げて、どのように教材化していけば良いのかを実践的に明らかにする。

Ⅲ 仮説

1 佐倉の祭り囃子を直接鑑賞したり、演奏したりするという体験を通して、興味の希薄であった地域の音楽を身近に感じ、学習意欲が高まるであろう。

2 自分たちのお囃子づくりをすることにより、地域の音楽への親しみが増し、自分たちとの関わりを強く意識するようになるであろう。

Ⅳ 研究方法

1 基礎研究

(1) 地域の音楽を指導する意義

「日本の音楽」の教育を単独に扱った公的資料として唯一の「中学校音楽指導資料第一集 日本の音楽の指導」(1973文部省 東山書房)では、「伝統音楽」の教育的意義を①音楽文化遺産の継承と伝承②広く豊かな感受性の育成③音楽文化の創造的活動への寄与と参加と記してある。ここで取り上げる「地域の音楽」は「伝統音楽」の中でも学生たちが実際に生活する場に現存するものであるから特にそうした教育的意義は高いであろう。

「地域の音楽」には、わらべうた、民謡、民俗音楽、民俗芸能、地域を素材とした新しい

音楽などがある。これらの地域の音楽は宗教、舞踊、音楽、文学、美術、地域行事等様々な要素と関連する。本研究で取り上げる祭り囃子を例にすると、これら様々な要素から成り立つ音楽文化には、由来、山車、神輿、おどり、面、かけ声、衣装、連帯感等があげられる。教材化の作業は、まず音楽的要素から出発するが、ただそれだけでは真の理解に至らない。音楽文化全体に目を向け、その特徴を感覚的に理解させながら音楽的視野を広げるとともに、幅広い音楽観を育成することに音楽教育における地域の音楽の教育的意義がある。

(2) 研究対象学生の実態調査

音楽教育法受講学生14名(女子12名、男子2名)

事前指導：9月23日(金)

- ・「身の回りにある日本の音」のイメージマップを描く
- ・事前意識調査
- ・佐倉の祭礼のVTR視聴とその後のアンケート

「佐倉の祭礼」の体験・参加10月14日(金)

- ・アンケート実施
- ・お囃子分析

検証授業：10月28日(金)～12月9日(金)

- ・毎時の学習カード(4種類)自己評価カード

事後指導：12月16日(金)

- ・自己評価カード
- ・「身の回りにある日本の音」のイメージマップを描く

(3) 「地域の音楽」を教材化するための手順と方法

①学区内またはそれに近い地域に存在している音楽文化を知る。知る方法として、各市町

「地域の音楽」教材化の試み

村の教育委員会社会教育課、文化課、文化財課、または観光課、公民館などに問い合わせると良い。

②実際に鑑賞する。お祭りや実際の奉納や練習でもよい。児童の実態からみて、表現技能が可能なものであるか。また、どうすれば可能かを検討する。

③演じ手から様々な特徴や基本的な要素を入手する。(地域の住民や伝承者の学校教育に対する理解があることが前提)

④教師自身も体験するとさらに理解が深まる。

⑤音楽要素を分析する。

⑥授業の中での目的と、どう教材として取り上げるのかを検討する。

実際の指導に当たっては次のような方法が考えられる。

ア、伝承されているとおりに教材化する方法
イ、若干アレンジしながらできるだけ伝承されているとおりに教材化する方法

ウ、教材になりにくい部分は扱わず、部分的に取り上げて教材化する方法

エ、原型をもとにしながらアレンジする方法
本研究においては音楽教育法授業で扱う場合として学生の実態、時間的制約等を考慮し、原型をもとにしながらアレンジする方法とした。

(4)「地域の音楽」とは

ここでの「地域の音楽」とは学生たちが日々学んでいる大学付近、またはそれに近い地域に存在している音楽を示している。すなわち「地域」とは、学生にとって身近で、本物を鑑賞しようとするれば鑑賞できたり、体験できたりする範囲の地域を示している。「地域の音楽」として取り上げたお囃子は限定された地域によって微妙な違いがありその地域独特の音楽が存在している。その違いを大切にして教材

化することに意義があると考え「地域の音楽」という言葉を使用した。

・カードに沿って学習の意義を確認する。

「地域の音楽」教材化について (その1) 28. 19. 14

「わが国の音楽」を教える意義について、文科省の資料によると

①音楽文化遺産の()と()

②広く豊かな()の育成

③音楽文化の創造的活動への寄与と()

○「地域の音楽」とは

○「地域の音楽」には

○「地域の音楽」は

例「祭り囃子」と関連する要素は

「地域の音楽」を教材化するための手段と方法

①()またはそれに近い地域に存在している音楽文化を知る。
知る方法

②実際に鑑賞する。お祭りや実際の奉納や練習でもよい。児童の実態からみて、表現技能が()なものであるか。また、どうすれば可能かを検討する。

③()から様々な特徴や基本的な要素を入手する。(地域の住民や伝承者の()に対する理解があることが前提)

④教師自身も()する。

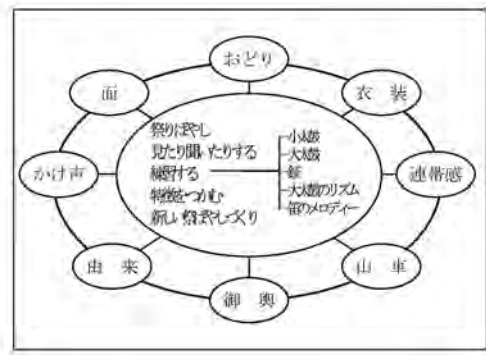
⑤()を分析する。

⑥授業の中での()と、どう()として取り上げるのかを検討する。

(5) 祭り囃子の要素

「地域の音楽」として「祭り囃子」を取り上げた場合、その地域独特の音楽文化として付随する下図のような要素があげられる。

学生には「佐倉の祭りのVTR」を視聴することで、佐倉の文化、祭りの歴史や祭りの要素について知らせた。



(6) 音楽的な要素

「佐倉の祭礼」の体験・参加したことをもとに音楽の要素についてまとめ次の音楽づくりに活かす。

・学習カード

学習カード1		
祭り囃子を聴こう		
お囃子を見たり聞いたり体験したりして感じたこと、学んだことを具体的に記入しよう		
	イメージ・曲想	特 徴
リズム		
メロディー		
ハーモニー		
その他		

お囃子で使われている楽器についてまとめてみよう	
楽器名	特 徴

○基本的な操作方法について気づいたこと ○初歩的な演奏方法について感じたこと
○音の特性 ○疑問点 ○スケッチ

考察：音楽の諸要素に分解してお囃子をアナライズした。繰り返されるリズムの特徴、民謡音階によるメロディー、各楽器の音の重なり方等分析することができた。

2 実践研究

(1) 検証授業

・指導計画

次	第一次	第二次
時	1 2 3 4	5
目標	・自分たちのお囃子づくりを通して「地域の音楽」に親しむ。	・お囃子を発表したり他の作品を鑑賞することにより自分たちとの関わりを意識する。

学習内容	<p>佐倉のお囃子をつくろう</p> <p>一 小太鼓のリズムを生かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地の祭りのVTRを常にながす。 ・各班ごとにお囃子のテーマを話し合う。 ・どんなふう、何を表現するのか具体的にします。 1 担当する楽器を決める。組合せを話し合い楽器を分担する。 音色を工夫する。 2 楽譜やメモをとりながら曲想表現を工夫する。 ・メロディー 律音階 ラドレミソラ ・リズム 口唱歌のテケツツテ テスケツツツを活かす。 ・テンポの変化、強弱等の工夫。 ・踊りはVTRより技を取り入れるなどする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営（すべて学生） ・発表する。 ・鑑賞する。 ・発表の仕方 <p>(1) メンバー紹介</p> <p>(2) テーマについて</p> <p>(3) 工夫したところ</p> <p>(4) 演奏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞ノートに良かった点をメモする。 またアドバイスを。
資料	<p>お囃子カード1</p> <p>お囃子カード2</p> <p>楽譜の書き方の例</p> <p>自己評価カード1～4</p>	<p>鑑賞カード⑥</p> <p>自己評価カード⑥</p>
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に関心を持たせる 地域の音楽文化を直接鑑賞したり、演奏するという新しい体験を大切にする。 ・環境を整える 	
自由記述と自己評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・佐倉のお囃子の特徴を体でつかませる。 ・お囃子づくりの約束を確認する。 ・グループごとの練習場所を確保する。 ・楽器の奏法、音色を工夫させる。 ・小太鼓は常に口唱歌させる。 ・どんな気持ちのどんな祭りでそれをどう表現したらよいのか「その音でいいかな」を問いかける。 ・自分たちでわかる記譜でよい。 ・グループで協力し合いながら積極的に活動させる。 ・音楽的要素以外の付随するものについては自然に意識できるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫を意識しながら発表させる。 ・テーマにせまるためにどんな工夫がされているかに気づかせる。 ・お囃子と自分たちとの関わりを常に意識させるような発問を心がける。 （佐倉のどんな町並みの様子？ かけ声はどうやって考えた？ 佐倉の宝って何？ 日本人だから心のつながり歴史の街佐倉に住んでいることなど）

考察

最初、口唱歌しながら太鼓を打つというのが難しく、声も小さかったが、学生の心が集中し、お囃子の世界に引き込まれていった。また、笛に合わせ、アンサンブルの楽しさや独特の間にも興味を示した。

- ・お囃子カード

[illegible]

- ・輝神街マップ°



学生が作った架空の町のマップである。この町のどの場所で聞こえるお囃子かをイメージさせることで、その後の自分たちのお囃子づくりがスムーズに進むようになった。



「どんな音がいいかな」

- ・お囃子カード2

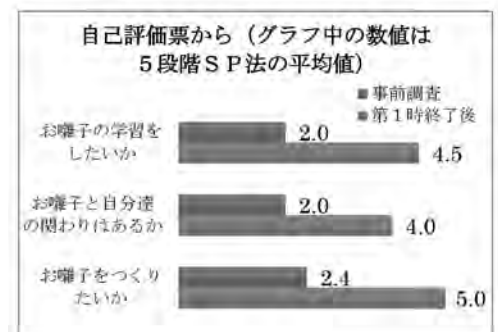
[illegible]

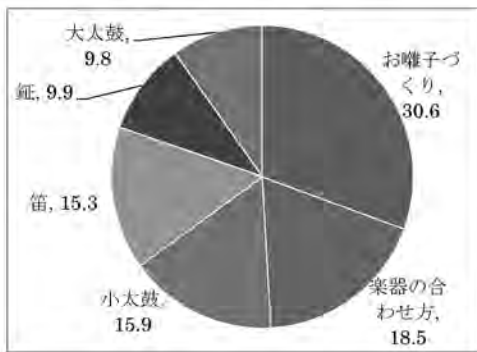
- ## (2) 検証授業の分析と考察

仮説 1 について

- ### ・事前、事後意識調査の比較

①仮説1について「身近に感じたか、学習意欲が高まったか」





*考察・・・意欲面で2倍以上にアップしている。これは「地域の音楽」を実際に体験したり、知識を得たりしたからに他ならない。「自分たちの地域の祭りはどんな祭りなんだろう」という発言も聞こえてきた。お囃子と自分たちとの関わりについては、当初、「自分の地元なら関わりがありそう」という学生が9名いたが、あくまで「ひとごと意識」が感じられた。そこでさらに創造力を高めるため学生に「輝神街マップ」を描かせ、身近な本大学を中心とした街のイメージを膨らませることで関わりをより深く意識できたと思われる。「お囃子をつくりたいか」については全員がやってみたいと回答した。

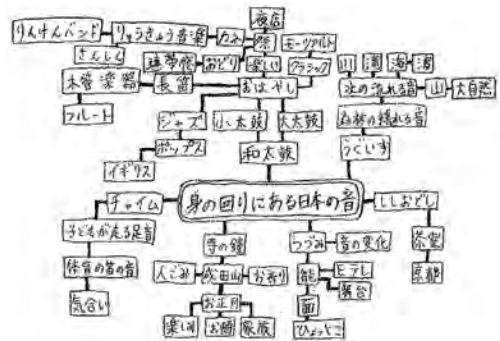


・「身の回りにある日本の音」のイメージマップを描く・・・資料

事前



事後



*考察・・・同じ学生の例である。事前調査では広がりが見受けられない。発想が乏しい。さらに否定的にとらえている。しかしイメージが持てないだけで触発することにより広がる可能性を含んでいると考察した。事後調査では、枝葉が広がり、興味や知識、発想も豊かになり、論理的、情意的な広がりをみせている。



「地域の音楽」教材化の試み

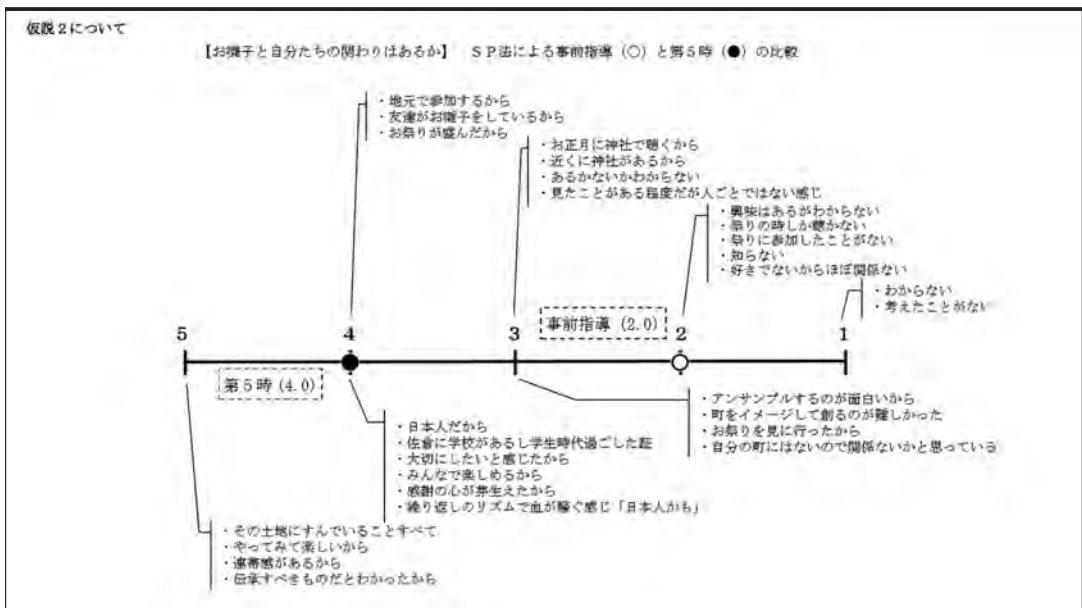
・事前調査（以前）と授業途中で祭礼見学した後（今年）の意識調査の比較

項目	以前	今年
出かけた	はい (10 人) いいえ (4 人)	はい (14 人)
参加した	はい (3 人) いいえ (11 人)	はい (14 人)
印象・思い出	<ul style="list-style-type: none"> ・賑わっている (5 人) ・ざわざわしている ・酔っ払って変なおじさんがいる ・柄が悪い ・犯罪が起こりそう ・わいわいしている雰囲気が良い ・賑やかで元気がでる ・出店で食べたこと ・混雑して疲れた ・ただ何となく参加したという感じ ・幼なじみ、旧友に会って嬉しかった (4 人) ・連帯感 ・筋肉痛になった記憶 ・伝統を引き継いでいる人はすごい ・地元の祭りに毎年参加している。綱を引いているが何となく参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・とても楽しかった。特に山車を引いて参加できたのが感動 (6 人) ・今まで関わったお祭りで一番盛り上がった ・出店メインから人々の祈りへ思い出が変化した ・町内ごとにまとまっている ・感謝の気持ちが伝わる ・酔っ払っていても格好いい ・私たちを歓迎してくれて嬉しかった ・地元の祭礼と比較してみた①かけ声が効果しているのかお囃子が陽気②子どもたちが参加している。お囃子を演奏しているし年齢層が広い③山車の装飾が美しい④御神輿はわいわいではなく落ち着いているなど新しい発見が次々 ・もっと参加したい ・地域の人々が一致団結して一つのことをやり遂げようとする、連帯感的姿に心打たれた (5 人) ・楽器を演奏する人の熱気が伝わってきたこと ・クラスみんなで参加できてよかった
お囃子を見たり聴いたりしたか	はい (0 人) 少し (3 人) あまり (6 人) いいえ (5 人)	はい (14 人)
お囃子の感想・イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・どれも同じだろう ・気にしていないのでよくわからない ・うるさい・ださい ・山車で混雑 ・笛、太鼓、すずかな ・どんな楽器があるのかもわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・テンポが速く自分たちと比較してリズムカル (2 人) ・粋な感じは何から生まれるのか (3 人) ・同じメロディーを繰り返しているのか、違うのもあるみたい ・リズムを崩さないのがすごい ・坂道と平らなところで曲が違うのがわかった ・笛を吹く人の出入りの合図はわからなかった ・テケテンツク・・・とロずさめた ・音の重なりがそろっていてきれい ・太鼓の音程は変えることができるのかな ・太鼓を叩く人の人数が違います ・お囃子で元気になる (6 人) ・山車によってテンポが違う ・みんなで演奏する連帯感 ・自分たちが今練習しているお囃子が山車から聞こえてきてテンションが上がった。「あっ！あれだ」と気づくようになった自分がすごい ・いろんな曲がある (6 人)
自分の変化	<p>ある (14 人) ない (0 人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山車が来るたびお囃子ばかり聴いていた (5 人) ・テケテンツク・・・という小太鼓のリズムだけ聴き取れるようになったし一緒にロずさんでいた ・町によってお囃子が違っていた ・お囃子の上手い下手がわかるようになった ・大太鼓と小太鼓の音色の違いがわかるようになった ・お囃子って面白いんだなあと思うようになった ・日本特有のすばらしい音楽が祭りにはあると感じた ・なんで今までお囃子を聴こうとしてこなかったんだろうと反省した ・手踊りや金棒の子どもたちがお囃子と合っているのに驚いたし元気になった ・エッサノコラサノ・・・を覚えてしまい一緒にロずさんだり飛び跳ねていた (4 人) ・山車やお囃子を立ち止まって見たり、聴いたりするようになった ・ただざわざわしているだけでなく、お祭りやお囃子にテーマがあることがわかった ・一つ一つの楽器に役割があることが聞き取れた ・リズムやメロディーなどのパートに集中し立ち止まり鑑賞するようになった ・踊りにもいろいろあることがわかった ・以前は一緒に行った友達と話題にはならなかった山車やお囃子、音などについて話すようになった ・新しい知識をいろいろ身につけたんだなあと思った ・山車人形が印象的で歴史の勉強をしたくなった。祭りにじっくり参加した気分になった ・自分も積極的に参加したいと思うようになった (7 人) ・自分の地元の祭りをどうにかしたいと思った ・授業でやって人ごとではなく、子どもたちにも伝承していきたいと強く思った ・子どもにもいい経験になるだろう ・異年齢交流も豊かになるだろう ・子どもたちにもお囃子を教えたい ・地域の方々が学校に教えに来てくれるシステムはできないのか 	

考察・・・学生たちは、事前指導（以前）の調査から祭りの見学や参加の経験が少なく、お囃子に耳を傾けた経験のある学生も少ない。今後指導する上で、以下の6項目を配慮する必要がある。

- ①実際の祭り、生の音楽に触れさせる必要がある。
- ②実際に楽器に触れさせるとよいであろう。
- ③音楽の成立過程を大切にする必要がある。
- ④教師が学生の実態をつかみきっていないので常に意識調査やアンケートを実施する。
- ⑤人ごととしての音楽としてしか感じていないのでどう自分たちとの関わりを感じさせるか工夫する必要がある。

⑥日本人としての音楽感覚をどう触発するか。授業展開途中で佐倉の祭りを見学・参加し、その後アンケートを実施した。事前に比べ記述内容が5倍以上となり、授業での学びはもちろんであるが、参加・見学することの教育効果の高さに驚いた。仮説1の佐倉の祭り囃子を直接鑑賞したり、演奏したりするという体験を通して、興味の希薄であった地域の音楽を身近に感じ、学習意欲が高まったと十分言えるであろう。



考察・・・事前調査では関わるの程度が低かった。「関わり」というより「知らない」という無知によるお囃子離れのような。1と答えた2人は普段の授業において消極的であったり能動的であったり音楽を苦手としてきたと以前の調査で答えた学生である。しかし授業後、

関心の程度の差はあるが4や5と答えた。全く関わりがないという学生はいなくなり、関わりを感じている学生が増加した。また、「関わりがない」と答えていた中には、グループのリーダーとして活躍し「子どもたちに指導したい」と答えた学生もいた。

V まとめ

1 成果

(1) 佐倉の祭り囃子を直接鑑賞したり、演奏したりするという体験をすることにより、学生はこれらの音楽を身近に感じ、学習意欲を高めることができた。わずか5時間であったが大変興味を示し熱心に取り組んだ。また「身の回りにある日本の音」のイメージもプラス方向に広がった。

(2) 小太鼓のリズムを活かし、自分たちのお囃子づくりをすることにより、地域の音楽への親しみが増し、自分との関わりを意識するようになった。また五線譜に捕らわれずに演奏ができることにより音符を苦手とする学生も意欲的に取り組むことができ表現活動では和楽器の独特の響きを生み出す余裕もでていた。

副次的な成果として

お囃子独特の音楽感覚から感動の共有を得ることができたからか、クラスの雰囲気が開放的になって創作活動やグループ発表に自信をもって取り組めた。

2 課題

(1) 音楽教育的価値のある地域素材を厳選、教材化して題材を設定し効果的指導法を研究すると同時に先行事例等も含め系統的に位置づけたい。

(2) 学生の興味関心をわが国の伝統的な音楽や世界の民族音楽の学習へと発展させ幅広い音楽観の育成を図るような方向を考えたい。

(3) 音楽教育法の授業では配当時数に限りがあり指導内容厳選の必要がある。

(4) 和楽器の確保、すなわち多様な学生の活動を効率よく進めることのできる環境づくりに課題がある。

VI 資料

小中学校学習指導要領（文科省）

小中学校指導書音楽編（文科省 教育芸術社）

日本の音楽・アジアの音楽（岩波書店）

音楽指導資料第1集日本の音楽の指導（文部省 東山書房）

季刊音楽教育研究（音楽之友社）

佐倉のお囃子（佐倉の祭実行委員会）

（ご協力いただいた皆様）

佐倉市秋祭り実行委員会

佐倉市商工会議所

佐倉市観光協会

佐倉お囃子会館

表町町内会

佐倉市教育委員会

佐倉市立井野中学校